

令和3年度第1回石巻地域産業人材育成プラットフォーム会議 参加者説明要旨及び意見交換等概要

日 時：令和3年10月12日（火）

午後2時～午後4時

場 所：石巻商工会議所1階会議室

議 事

（1）石巻地域の雇用情勢について（石巻公共職業安定所）

◇令和3年8月の状況について

- ・石巻管内有効求人倍率は1.59倍となっており、県内で2番目に高い数値。平成24年8月以降、1倍を超える数値は110か月連続している。
- ・宮城労働局全体の求人倍率は1.34倍。築館が2.16倍と高い求人倍率となっている。今年1月に築館と石巻の順位が逆転している。それ以降、同じ状況が続いている。
- ・求人倍率が前年同月を0.08ポイント上回っているが、その要因は、有効求人数と有効求職者数の関係によるもので、有効求人数よりも有効求職者数の減少幅が大きかったためである。
- ・有効求人数は令和2年3月以降、18か月連続で5,000人を下回っている。
- ・有効求職者数は前年同月比-10.4%となっているが雇用保険受給者の延長給付により6月以降受給者が増加していたことが要因と考えられる。

◇求人・求職者数及び有効求人倍率の前年同月との差

- ・近年は求職者数が特に減少傾向となっている。

◇求人・求職のバランス

- ・全般的に人材確保が厳しい状況が続いている。
- ・建設、保安警備、介護福祉関係は求人が多くあるが求職者数が少ない状況。震災後からこのような状況が続いている。
- ・事務的職業や倉庫・軽作業については求人が一定程度あるが求職者が多く、狭き門となっている。

◇産業別新規求人数の推移（震災前・前年同月との比較）

- ・建設業、製造業、卸売・小売業、サービス業は震災前と比較して求人が多くなっている業種。
- ・医療・福祉については、新型コロナの影響により必要最小限の募集となっており、前年より少ない状況。
- ・宿泊、飲食サービス、卸売・小売業、生活関連サービス業については、震災前より新型コロナの影響による減少幅が大きい。

◇「雇用保険の適用制度から見た雇用の動向」（石巻管内）

- ・雇用保険加入者は震災前月（平成23年2月）より4,655人増加している。内訳として建設業が1.6倍、医療・福祉が1.5倍増加している。製造業は約2,500人減少している。

今後も新型コロナの影響を注視しながら支援をしていきたいと考えている。管内では現在、企業から大きな雇用調整があるという情報は入ってきていない。雇用調整助成金を活用しながら各社が対応していることが窺える。

（2）各教育機関における就職内定状況について

資料配付のみで説明は省略。

（3）令和3年度石巻地域産業人材育成プラットフォーム関連事業について（宮城県東部地方振興事務所）

◇令和3年度石巻市内高校3年生の保護者向け意識調査

- ・市内の高校3年生を対象とした意識調査を実施してきた石巻市と連携を図りながら、県が主体となってその保護者を対象としたWEBアンケート調査を4月下旬から7月下旬にかけて実施。

- ・回答率は調査対象者1,169人に対し、回答者99人(8.5%)と低調ではあったが、一定程度の傾向は見えているのではないかと考えている。
- ・来年度以降も実施予定で、回答率をさらに向上させるために効果的な対応策を検討する。

◇保護者向け意識調査の結果概要

- ・回答者の属性はほとんどが母親。家族の中で子供と進路について最も話しているのも多くが母親であり、子供の進路については母親の関与度が高い。
- ・子供の進路意思決定に際しての子供の意思尊重については、基本的には全ての保護者が子供の意思を尊重するものの、その7割は子供に助言はするとなっていることや子供との進路についての会話機会についてもそのほとんどがよく話す又は時々話すとなっていることから、子供の進路決定に対する保護者の関心・関与度は高いものと認められる。
- ・子供に勧めたい就職先については、石巻市と東松島市で3分の2を占めている。多くの保護者は子供に地元就職を望んでいることが分かる。
- ・子供に勧めたい就職先が管内以外の理由としては、勧めたい業種等がない、石巻以外の方が給与等の待遇が良い、石巻の企業をあまり知らない等がほぼ均衡しており、子供の地元就職に向けた保護者の意識を変えるためには様々なアプローチをしていく必要がある。
- ・保護者向け企業見学会への参加希望については、参加したい又は場合によっては参加したいで3分の2を占めている。前述の設定では多くの保護者は子供の意思を尊重するとの結果が出ているが、保護者としても自身が企業の情報を入手したいと考えていることが窺える。
- ・管内企業への就職が選択肢になるために必要なことについては、働きたいと思う企業が増える、給料が良い企業が増える、地元企業を見学する機会が増える等ほぼ均衡していた。管内には魅力ある優れた企業も多く存在することから、保護者がそうした企業等の理解を深めることによって、より石巻地域が就職先として選ばれることに繋がるのではないだろうか。
- ・自由記載の結果については一部抜粋して記載している。傾向としては、地元企業に関する情報等の増加や大卒向けの就職先確保等に対する要望等が多く見られたことから、情報発信も重要な要素の一つであるのではないかと考えている。

◇保護者向け意識調査の今後の活用策について

- ・今年度から当所や管内市町の産業及びSDGs担当課に加え、街づくり団体等の実務担当者による意見交換会を立上げ、これまでそれぞれの機関が直面した課題や培ってきた経験等に基づき、自由闊達な意見を出し合いながら、その時々々の情勢に合わせた効果的な施策を立案していくこととした。この意見交換会で見出された施策案については、本プラットフォームの下部に設置している石巻地域産業人材育成・定着推進会議においてさらなるブラッシュアップを行った後に皆様方にお諮りし、御助言や御承認をいただいた上で、具体的に展開していきたいと考えている。

◇企業の魅力発見!交流事業等の実施状況について

- ・この事業は、管内の高校生に地元企業への就職を選択肢としてもらうため、企業経営者や若手従業員等と交流してもらい、理解を深めてもらうことを目的に、実施校と連携しながら行っているもの。
- ・今年度から、初めて進学校を除く9校に幅広く募集を行った結果、6校から希望があり、これまでに、石巻工業高校、女川高等学園及び桜坂高校において実施してきた。
- ・今後は、石巻商業高校、石巻北高校飯野川校及び水産高校でも実施予定であり、現在各高校と詳細について打合せを重ねている。
- ・この事業を実施するに当たっては、当所において各高校の趣旨に沿った形での企業経営者及び従業員等の派遣や見学会受入企業の調整を行っており、高校からも大変好評をいただいている。当所としても、高校生の地元就職に繋がる効果的な事業の一つであると認識していることから、来年度以降は更に充足させて実施していきたいと考えている。
- ・その他当所農業振興部においても、青年農業者を育成する取組を行っており、6月には、石巻北高校食農コース3年生16人にデ・リーフデ北上を視察させてもらっている。

◇石巻専修大学を対象とした伴走型支援「地元就職応援プロジェクト」について

- ・この事業は、ここ数年一桁台となっている石巻専修大学新卒者の地元就職率を向上させるため、

参加を希望する同大学3・4年生を対象として、個別面談を行った上で、マッチング候補企業リストの提供やキャリアカウンセラーによる面接対策のサポート等、一人一人に対して丁寧に支援していく内容となっている。当所、石巻専修大学及びみやぎシゴトサポーター石巻の3機関が連携を密にしながら対応している。

- ・これまでに4年生3人と3年生4人から参加希望があり、4年生に対しては、管内企業等23社の情報を提供。この中には、大手就活サイトに求人情報を出していない企業もあった。こうした企業については、当所がこれまで企業訪問や別途調査した結果、来春における大学新卒者の採用意向があると確認できた企業である。
- ・キャリアカウンセラーによるサポートについては、現時点で3人がみやぎシゴトサポーター石巻へ申し込んでおり、個別面談や職場見学といった支援を行っている。

◇石巻専修大学を対象とした伴走型支援「経営者セミナー及び企業研究セミナー」

- ・この事業は、1年生のときから地元産業は企業の魅力を知ってもらおうと共に、理解を深めてもらうことにより、石巻地域を卒業後における就職の選択肢として選んでもらおうとするもの。

「石巻圏域企業研究セミナー」

- ・7月20日と21日の2日間にわたり開催し、1年生から4年生延べ44人、管内企業等15社に参加していただいた。当所としてもブースを出店させ、「地元就職応援プロジェクト」のPR等を行った。

「経営者セミナー」

- ・1年生全員約360人を対象として、11月30日に講義の一コマとして行うこととしている。テーマについては、管内の代表的な産業の一つである水産について、その魅力や面白さ等を伝えるものとしており、講師は水産関係事業者等10社により設立された石巻うまいもの株式会社をお願いしているところである。
- ・石巻専修大学を対象とした伴走型支援についてもより多くの新卒者に地元就職してもらうよう、より充足化を図っていきたい。

(4) 各機関における令和3年度の産業人材育成関係事業について

■石巻商工会議所

◇雇用推進委員会と石巻管内高等学校・大学進路指導担当者との懇談会

- ・7月15日に実施。出席者は14人で高校4校、石巻専修大学、企業5社が出席。当所雇用推進委員会主催で9月から行われる本年度の高校新卒社の採用試験を控え、各高校・大学の就職希望者の状況及び取組、企業側の対応状況について意見交換を行った。

◇企業ガイドブックの発行

- ・昨年に続き発行。掲載企業数は79社。昨年度よりも増えており、良くなってきた。

◇市内高校への就職支援

- ・市内高校において模擬面接、就職講話等の事業の実施にあたり、職員を派遣する等の協力支援を行った。就職講話への協力として7月2日石巻北高校2年生を対象に講話。模擬面接・就職ガイダンス等への協力として6月23日宮城県水産高校、8月17日に石巻工業高校、9月8日石巻商業高校で実施した。

■石巻信用金庫

◇石巻圏域企業研究セミナー

- ・石巻専修大学で開催されたセミナーに参加。1年生から4年生まで計10人の学生に説明。

◇ハローワーク合同企業説明会

- ・ハローワーク石巻主催の説明会に参加。高校3年生50人に対し、説明。

◇桜坂の桜坂による桜坂のための企業説明会

- ・8月に桜坂高校での企業説明会に参加。高校3年生10人に対し、説明。

◇採用予定

今年度は高校生・大学生合わせて10人の採用を予定。その他にUターンを希望する若手を数人ほど中途採用しており、今年度も採用を予定している。

◇今後の予定

- ・お金の大切さを伝えるしんきんマネースクールを実施予定。石巻管内の小学校を対象としている。昨年度は桃生小学校で開催。
- ・石巻専修大学と連携した I S 奨学研究会研究発表会を開催予定。地域の産業の発展に資する研究に対して助成を行っている。

■石巻専修大学

◇石巻圏域企業研究セミナー

- ・石巻地域で就職したい学生に対し、必要な情報を提供することが課題。そのため、7月20日、21日にセミナーを開催した。46人の学生が参加した。3、4年生が多いのだろうと考えていたが、2年生も多く参加していることや参加者のうち石巻圏域外出身者も多くおり、関心の広がりを感じた。

■石巻管内高等学校卒業生就職対策連絡会議（石巻商業高等学校）

◇石巻商業高等学校における令和3年度の取組状況

- ・1年生に関しては、進路に関して考える機会として、4月にオリエンテーション、6月に進路講話の時間を設けている。
- ・人材育成に関してはインターンシップを実施。昨年度はコロナの関係で中止となった。今年度は7月に実施した。100社に依頼したが受入は28社であった。今回は3年生、就職希望者及び進学希望者総勢55人のインターンシップを1日かけて行った。
- ・2年生のインターンシップは10月を予定していたがコロナの影響で事業者からの断りが多く中止となった。
- ・2、3年生に対しては将来の方向性を見つけてもらうために、各種ガイダンスを実施。具体的な職業探しに関する内容となっている。
- ・12月に宮城県東部地方振興事務所と連携して1年生向けに若手社員との交流会を12月8日に実施予定。
- ・1月には1、2年生を対象とした先輩から話を聞く会を実施予定。何をすべきかをしっかり考えてもらう機会を設けている。

■石巻公共職業安定所

◇新規高卒者への就職支援

- ・5月には新規高卒者対象求人説明会を開催。合計71社参加予定。また、管内高校進路指導部を対象とした就職対策連絡会議を開催。昨年度の就職状況、今年度の就職支援策・計画等を確認させていただいた。
- ・6月には求人受理開始を開始している。また、新任進路指導担当教諭等研修会を開催しており、4人の教諭が出席している。
- ・7月は13日、14日に高校生のための合同企業説明会を開催。例年1日開催だったが、新型コロナウイルス感染防止対策のため、2日に分けて62社、413人の生徒が参加。
- ・9月は5日から推薦開始、16日から先行・内定開始となっており、現在、内定状況を集約しているところである。
- ・10月21日は新規高卒者合同就職面接会を開催予定。40社、26人の生徒が参加予定となっている。昨年度は39社に対して39人の参加だったため、少ない状況。
- ・11月から12月には、台2回の就職対策連絡会議を開催予定。
- ・翌年1月からは、一般求人を活用した職業相談・紹介を開始予定。

◇新規大卒者等への就職支援

- ・石巻専修大学向けに毎週木曜日、出張相談を実施しており、求人情報の提供・面接対策、書類の添削等を行っている。

■東部教育事務所

- ・平成29年度から10年間、第2期宮城県教育振興基本計画に基づき、震災から復興に向けた社会の中で子供や社会の目指す姿を定めて、学校・家庭・地域それぞれの立場から同じ目標の達成に向けて取り組むこととしている。東部管内では、生涯学習推進の基本方向を定め、取り組んでいるところである。

◇主な取組（学校教育）

- ・平成22年度に志教育を打ち出し、人と関わり、よりよい生き方を求め、社会での役割を果たす、3つのキーワードを合い言葉に小中高と全時期を通して、社会人としてのより良い生き方を主体的に求めさせていく取組を行っている。
- ・近年では、文部科学省より令和の日本型教育の構築を目指すことが打ち出されており、以前から内外で評価の高い知育、徳育、体育を一体的に育む日本型の学校教育を一層重視し、society5.0という新時代にふさわしい教育のあり方を追求しているところである。

◇主な取組（社会教育）

- ・当所では生涯学習担当として学校や地域の社会教育に携わっている方々に対して、指導・助言を行う、2人の社会教育主事が配置されている。主に公民館等社会教育施設の方々、学校と地域連携に関する働きかけ、ジュニアリーダーの育成に関わること、青年文化祭に関わることを行っている。
- ・それ以外にも子育てや家庭教育支援等、家庭・地域・学校が協働して子供を育てるための環境づくりの推進をしている。

◇実践事例

- ・職場体験・職場見学、職業人や先輩等の話を聞く会、キャリアセミナー等進路指導については小中学校の9年間を見据えてカリキュラムに位置付け取り組んでいる。ただし、コロナ禍で取組が制限されており、中止や変更等余儀なくされている学校が多いことが現状である。

- ・市町の特徴ある取組

石巻市の協働教育推進事業については1つの学校が3年間継続して取り組んでおり、家庭・地域・学校が協働して地域全体で子供達を育むための様々な取組を行っている。今年度は15校が取り組んでいる。

東松島市では鳴瀬未来中学校で職業人の話を聞く会「ジョブカフェ」が令和元年度に文部科学大臣から表彰を受けている。それとは別に同市の小学校ではふるさと教育と銘打ち、次世代の地域の担い手の育成を目的として地域の特色について体験を通して学ぶ機会を設けている。

女川町ではおながわ放課後学校「潮活動」を実施。小学校児童について放課後の居場所を提供し、学習からスポーツまで幅広く活動の場を提供している。また、中学生に対しては伝統芸能や地域食材を扱った料理教室等様々な分野の講座を準備して生徒が学ぶ機会を設けている。

■石巻高等技術専門校

◇取組状況

- ・普通課程の実施。自動車整備科は2年生が11人中10人は既に内定を受けている。金属加工科3人は就職活動中、木工科6人も就職活動中という状況となっている。
- ・短期課程については、離転職者を対象とした訓練を行っている。施設内訓練としては溶接科と配管科があり、6か月の訓練で溶接科は現在2人。配管科は0人となっている。施設外訓練（委託訓練）として3か月の訓練でIT基礎科、経理基礎科、介護職員初任者研修科がある。
- ・追加習得訓練は在職者を対象とした1日6時間を2日間、計12時間の職業訓練を実施予定でパソコン基礎科、溶接科の2講座を予定している。
- ・就職対策については、施設内訓練では、学生と保護者、指導員による3者面談、企業訪問を実施して就職に結びつけている。また、就職定着調査を実施しており、就業3年後の卒業制の定着状況をアンケート調査している。
- ・施設外（委託訓練）の就職対策については、委託先にお任せしている。
- ・高校教育課との連携事業として、県立高校に在籍する生徒の職業訓練体験を行い進路の選択肢を広げてもらうことを目的に今月2人に対して実施している。機械測定、製図（CAD操作）を2日間に渡り、体験してもらった。

■石巻市

- ・合同企業説明会を10月20日に予定しており、みやぎシゴトサポーター石巻及びハローワーク石巻と市が連携し、市内6社の企業が参加して合同企業説明会を開催する予定。
- ・昨年、保護者との企業訪問を予定していたが新型コロナの影響により中止を余儀なくされたが、

今年度は状況を加味しながら再開を検討している。

- ・石巻市では農業、漁業の人材確保のため、担い手センターを運営している。漁業では一般社団法人フィッシャーマン・ジャパンに委託しており、これまでは漁業のみであったが、対象業種を拡大し、水産加工業も含めて実施している。また、今年から物流についても担い手の育成、企業支援をしている。今後、企業側の育成も含めて推進していきたい。

■東松島市

- ・昨年度も発行した企業ガイドブックの改訂版を作成中。管内の高校に配布予定。
- ・企業ガイドブックの動画作成を検討している。企業ガイドブックにQRコードを付けて動画配信する。昨年度実施したソフトバンクのインターン事業を展開する中で、市の課題解決のための提案としてあげられたもの。コロナ禍における企業の人材確保としてのフィードバックとして実施。学生については雑誌よりも動画により企業側からの発信が効果的と考え、実施することとした。現在、企業を回って動画を作成している。当初はLINEにより実施を予定していたがセキュリティ面から見送りとなった。高校生自らが情報を入手できる状況を作っていきたい。
- ・企業説明会についてはハローワーク石巻と連携して実施を検討している。

■女川町

- ・小学生を対象とした産業人材の育成や地元就職に向けた取組として例年行っている。女川町商工会に対する補助事業として、「女川商売塾」を実施している。町の小学生を対象に充実した生活実学を学習してもらうことにより、女川を担う人材の育成を目的としている。今後、発表会を予定している。
- ・社会人等を対象とした地元定着に向けた取組として、実施主体がNPO法人アスヘノキボウとなり、創業支援プロジェクトを実施している。

◎意見交換

■石巻商工会議所

- ・人口減少によりこの地域のGDPは減少し、全般的に縮小傾向となるがそうならないようにするためには、所得を上げる必要がある。そのためには生産性を上げなければならず、一人あたりの生産性を上げるには、教育（人材育成）が必要。石巻高等技術専門校のIT基礎は当然必要な研修だが、専門的なIT人材の育成が重要。そのような人材がこの地域には少ないように感じる。また、IT専門の人材を活かし、生産性を上げるための支援を県等により推進してもらいたい。

■宮城県東部地方振興事務所

- ・県、市町及び大学が連携しながら進めていきたい。今いただいたお話をしっかり受け止めて、本庁にも伝えていきたい。

■石巻専修大学

- ・4月から経営学部に情報マネジメント学科を創設している。今、データサイエンスが注目されており、当大学では経営学分野でのデータ分析を重視し、企業支援に繋げることやデータサイエンスに基づいたビックデータを用いて社会貢献をしていきたい。

■東松島市商工会

- ・復興需要の減少により、建設関連事業が2～3割程度減少する見込み。そのような中で異業種参入（転換）を検討している。（会長が代表を務める（株）橋本道路では）産学連携という形で、東北大学、筑波大学、大手の自動車メーカー、電機メーカー及びUMI（投資会社）でオメガ酸の抽出、商品化を行っている。工場の設立や雇用の拡大を考えている。建設業は機械があるので活用の幅が広い。農業とも連携できる。新しい雇用を生み出す異業種連携は重要。また、渥美東松島市長とも企業訪問を行っており、将来的な設備投資をどうするか、雇用をどうしていくか、企業と直接やりとりをしている。自治体や商工会、民間企業が壁を作らず対話を進めることが重要。

■宮城県東部地方振興事務所

- ・異業種連携は重要と考えており。民の力を借りながら最大限活力を発揮していくことが重要である。連携を深めていきたい。

ー以上ー